

The 2nd IAGG Master Class on Aging in Southeast Asia に参加して

細井 達矢

(日老医誌 2019 ; 56 : 540)

2019年5月27日から29日にフィリピン、マニラで開催された「The 2nd IAGG Master Class on Aging in Southeast Asia」に参加させて頂きました。まず、今回のMCAで大変お世話になりました。日本老年医学会、講師の先生方、スタッフと参加した仲間たちに深く御礼申し上げます。

私は東京大学医学部附属病院および大学院医学系研究科において老年病科医として、サルコペニアを中心に研究と診察にあたっております。今回は各国からいらっしゃる先生方より、各国の高齢者診療の現状や問題点、その対処法に直接触れ、学びたいと考え、研究会に参加させて頂きました。またアジア各国の若手医師と交流を深めることで、医学だけでなく文化的交流も行い、医師としての人間性の涵養を図ることも目標としておりました。

研究会では自国の実情を報告し、議論する機会が多々ありました。特にグループ毎の症例検討の時間には、提示された症例について話し合う中、各国の病院事情や受診状況、医療政策、年金制度など高齢者を取り巻く社会情勢についてまで議論がおよび、お互い大いに知識を深めることが出来ました。また班の検討結果を全体に発表する役を任せられ、拙い英語ながらも全員の前でプレゼンしたことも大変刺激となりました。

講義の後には歓迎セレモニーをして頂いたり、仲良く



写真 各国からの参加者で（筆者は後列右から2番目）

なった友人と食事に行ったりと、文化交流の点でも大成功だったと思います。参加者同士、今後お互いの国を訪れる際は必ず会おうと約束しております。

今回MCAに参加させて頂き、今後の研究や仕事、英語学習への意欲など、多くの面で活力を与えていただきました。こうした機会を用意頂いたIAGG（国際老年医学会）や日本老年医学会には大変感謝するとともに、本経験を必ずや今後の診療・研究に活かしたいと考えています。